

中央大学学員会 中大技術士会支部 ニュースレターvol.52

会員の皆様へ

コロナウィルスの感染者はワクチン接種の効果か国民の自粛、政府・自治体の施策の効果の表れか、全国的に減少傾向が見られます。東京都をはじめ、各対象区域の都道府県に発令された緊急事態宣言も解除となりました。このまま人類がコロナに打ち勝ち、終息し、平穏な日常を一日も早く取り戻し、学生の皆さんにも本来のキャンパスライフを満喫できるようにと祈るばかりです。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してください。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「大学支援部会長就任にあたって」 中大技術士会 国友信秀さん（生物工学部門・総合技術監理部門）	2 ページ
内藤堅一会長を偲んで	4 ページ
■ 「内藤堅一会長を偲んで」 武安 真児さん（情報工学・総合技術監理部門）	4 ページ
活動報告	5 ページ
■ 幹事会報告	5 ページ
■ 部会報告	7 ページ
活動計画	7 ページ
■ 企画部会活動計画	7 ページ
■ 大学支援部会活動計画	7 ページ
リレーエッセイ	8 ページ
■ 「還暦を目前にして思うこと」 小園江 雅彦さん（建設部門・総合技術監理部門）	8 ページ
投稿エッセイ	9 ページ
■ 「大学時代に考えていたこと（私の原点）」 山下三雄さん（建設部門・総合技術監理部門）	9 ページ

■ 「大学支援部会長就任にあたって」

中大技術士会 国友信秀（生物工学部門・総合技術監理部門）

この度、大学支援部会長の就任に際して、ご挨拶申し上げます。
平成6年応用化学科卒業の国友信秀と申します。現在、エンジニアリング会社で技術開発をしております。何卒よろしくお願ひいたします。

まず、昨今の新型コロナウイルス感染症という災害の中、日々、社会のため、人命のために奮闘してくださっている方々に深く敬意と感謝を表したいと存じます。

中大技術士会の会員、大学関係者の皆様の安全・健康を第一に、母校と学生の支援をしっかりできるような部会活動を行ってゆきたいと考えております。



さて、コロナ時代を生き抜く方策として提唱されている「新しい生活様式」に際し、中大技術士会として、卒業生として「学生たちを支援」していく上で、今、何が求められているのか考えてみたいと思います。

1. 今、学生たちは何を感じているか？

新型コロナの影響で、2020年春頃から、私自身の働き方はテレワークが中心となり、会社に通勤することも、ほとんどなくなってしまいました。テレワーク導入の当初は、オンライン会議の不具合、部下や上司とのコミュニケーションなど様々な問題がありましたが、現在では、WEB会議はもちろん、オンライン飲み会なるものまで当たり前のように定着してきたと感じております。今では、新しいコミュニケーションとしての良い側面も享受しはじめているようにも感じております。一方、このような新しい生活様式が社会に定着しつつある中、「大学生・大学院生」は、今どのような立場に置かれているのでしょうか？

私には大学3年生の息子がいますが、先日、息子に「大学に入学してから、通算して、たった10ヶ月程度しか大学に行けていない。あと1年と少しで卒業だよ。小中高校生は学校に行けて、なぜ自分たちは、大学に行けないのだろう」と悲しそうに言われました。

確かに、授業はオンライン、部活動は制限され、合宿やイベントなど思い出になるような行事はほとんど経験できていません。友人の中には、地方から上京したものの、アルバイトのシフトが激減し、生活費が苦しくなった為、アパートを引き払い実家に戻ったと言う学生もいるようです。さらに、東京オリンピック・パラリンピック開催前後の際には、「若者が感染を広げているので行動を自粛せよ」等の風潮がある一方、ワクチンを接種したくても、順番がまわってこないなど、大学生を中心とした20代前後の若者たちが、矛盾した状況の中、最もコロナの不遇を被ったのではないのでしょうか。

そのような状況の中、中大の後輩たちが、新しい生活様式、つまり、アフターコロナにおいて、未来輝く世界へと羽ばたくために、今、学生たちは何を求め、何を危惧しているのでしょうか？毎年、中大技術士会から講師派遣を行い、技術者倫理などの授業を行っていますが、講義等を通じて学生たちの声に耳を傾け、一緒に考えてみる必要があると考えます。

2. 大学支援部会として何をしてゆくべきか

社会がグローバル化し、雇用形態も大きく変わろうとしています。ワークライフバランス等といった、一見、耳障りの良い言葉を耳にする機会が増えましたが、これから人口が減少する日本にとっては、厳しい時代を迎えることは間違いないと考えられます。中大の後輩たちも、この厳しい時代に立ち向かって行かねばなりません。まず、学生たちに立ちはだかる最初のハードルは「就職活動」です。企業も優秀な学生の獲得に懸命です。企業の採用担当者は学生に対して、「学生生活で何に力を注ぎましたか？」と定番の質問をします。いわゆる 「がく・ちか」という就活キーワードです。アルバイトも部活動も制限されてきた学生たちも、コロナ前の学生たちと同様に、自身のアピールをする必要があるのです。

こうした中、「私は、技術士第一次試験に合格しており、将来、技術士を目指しています」という一言があると、どれだけ、就職活動の際にアピールできるかは、計り知れないと思われます。さらに、就職活動のみならず、技術士試験に挑戦することの利点は、知識の暗記試験で無く考え方試験である点、技術者倫理を問う試験である点から、社会に巣立ってから社会人生活を有意義なものにしてくれることは言うまでもありません。

したがって、中大技術士会は、多くの中大生（含む卒業生）の技術士試験の合格に向け、支援を続けていきたいと考えます。これまでの、大学支援部会における良い点を引き継ぎつつ、今後は、アフターコロナを踏まえた新しい支援の仕方模索・取り入れつつ、母校の一助となれるよう精一杯頑張っていきたいと考えます。

■ 「内藤堅一会長を偲んで」

武安 真児さん（情報工学・総合技術監理部門）

中大技術士会ニュースレターvol.51でお伝えしましたが、内藤堅一会長が、6月23日にご逝去されました。内藤さんは中大技術士会の会長として熱心な活動されていて、会に多大な貢献をされている中で亡くなられたことは非常に残念でなりません。

内藤さんの今までの中大技術士会でのご活動を見てみますと、2004年の中大技術士会の発足時には直接は関係しておられなかったようですが、その後、2008年より幹事として活動に参加するようになり、2012年からは副会長兼企画部会長を務められ、2014年の定時総会終了後より金川前会長から会長職を引き継がれて、会長に就任されました。

企画部会長でおられたときには、中大技術士会講演会やテクノロジー懇談会の企画や開催、理工白門祭やホームカミングデーへの参画、また法曹会との交流会等に尽力されました。

中大技術士会の会長に就任されてからも、いろいろなイベントにも引き続き出席されて、会を盛り上げることに注力されていました。なかでも会長の活動として特筆すべきことは、内藤さんが会長に就任後、技術士第1次試験合格者の在学生の大学別の順位で中央大学が全国1位になったことがあり、内藤会長が学生向けのガイダンスや模擬試験において、学生への技術士資格の重要性を熱心に説いていたことが大きいと思います。

企画部会の業務は私が引き継ぐことになりましたが、会長になられた後でも、ホームカミングデーや理工白門祭へも積極的に参加されて、企画部会の運営にもご協力いただきました。

理工白門祭での展示は、私が企画部会長になってからは、展示内容をタイガー計算機（手回し計算機）のような古い計算機の展示に変えましたが、内藤会長は昔実際にこれらを使っていたということで、タイガー計算機を慣れた手つきですばやく操作されて、また参加者へも使い方を熱心に説明されていたことがとても印象に残っています。

また、中大技術士会の分科研究会の一つであるCO2環境対策技術研究会では、幹事長として研究会の多くの活動を支え、さらに大学との良い関係を築くことにも貢献されていました。

昨年幹事会もオンライン会議になっているため、直接内藤さんにお会いしたのは2020年1月の幹事会が最後で、その後、直接お会いすることができないままのお別れになってしまいました。内藤さんから幹事宛に最後にメールをいただいたのは6月8日でしたが、それからわずか2週間あまりで訃報を受け取ることになり、あまりにも突然のお別れになり残念でなりません。

内藤堅一会長のご冥福をお祈り致します。



写真1 技術士第1次試験模擬試験で学生に説明する内藤会長（2017年）



写真2 理工白門祭で来場者にタイガー計算機の説明をする内藤会長（2019年）

■ 幹事会報告

行事名	開催日程	活動概要
2021 年度第 3 回幹事会	令和 3 年 8 月 20 日 (金) 午後 7 時～8 時 30 分	<p>1. 報告事項</p> <p>(1) 総務部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 8/19 山下が 2021 年度支部活動支援申請書を学員会事務局に提出した。 内藤会長のご逝去に伴い、中央大学商議員候補者推薦書を坂林次期会長候補を推薦し、学員会事務局に提出する。 林幹事長の支部役員変更届については、本人の記名捺印が得られなければ、その理由書を添付すれば OK とのこと。 <p>(2) 企画部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年総会時に開催する特別講演会は検討中。山下が講師は内部関係者でも、補助金は出ると学員会事務局で確認。 講演会講師の候補者として技術士の活躍についてメディアに積極的に働きかけている小柳幹事があがった。 <p>(3) 広報部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 10/10 発行予定の Vol.52 の巻頭言は国友副会長候補に変更し、Vol.53 は坂林会長候補とする。Vol.54 の編集担当者は山下とする。 CO2 環境対策技術研究会の活動報告は、内藤会長のご逝去に伴う解散により以後中止とする。 <p>(4) 大学支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 10/16 (土) に技術士第 1 次試験模擬試験を実施するので、幹事各位への協力要請があった。 現役学生の技術士第 1 次試験合格者数の全国 1 位奪還のため、受験者数 700 名を目指す。この PR を含めて中大技術士会のツイッターの開設について、国友幹事を中心として検討する。 <p>(5) 各学科との協力事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし <p>2. 審議事項</p> <p>(1) 今年度の総会の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催日時は 10/9 (土) 午後 2 時からとする。 2020 年度活動報告及び 2021 年度活動計画について、CO2 環境対策技術研究会は金川名誉顧問が記入し、全体総括・新規事業欄については坂林会長候補に記入を依頼している。 2020 年度決算報告及び 2021 年度予算については、幹事会で既に承認済みです。 <p>(2) 次期役員候補について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の総会に諮る次期幹事候補者名簿について黒澤氏を追加する。林幹事長の退任については坂林氏から本人に確認のうえ決定する。ただし確認が得られない場合は、2 年間余り活動を一切していないことを考慮して判断する。 内藤会長のご逝去に伴う次回総会後の幹事会までの役員変更については以下の通りとする。 <p>会長：坂林氏（ただし、総会後の幹事会で正式に決定する） 大学支援部会長：国友副会長候補（同上）</p>

行事名	開催日程	活動概要
		<p>その他：留任</p> <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金川名誉顧問から CO2 環境対策技術研究会の解散について、内藤研究会幹事長のご逝去の伴い後任の候補者がいないこと等の諸般の事情について説明があった。 ・理工学部ホームカミングディは 11/21（日）オンラインで開催する予定であるが、現時点で詳細は未定。
2021 年度第 4 回幹事会	令和 3 年 9 月 17 日 （金）午後 7 時～8 時 30 分	<p>1. 報告事項</p> <p>（1）総務部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>（2）企画部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年総会で開催する特別講演会は、小柳幹事が講師になることとなった。演題は「技術士魂の伝承—未来を切り開く技術士資格の活用法」 <p>（3）広報部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバーの運用については、ドメイン及び利用料更新は例年の通り。 ・ニュースレター Vol.52 は伊藤幹事が担当する。リレーエッセーは、幹事の枠を超えてつながりだした。合格体験記は原稿不足。CO2 研究会の活動報告はなし。 <p>（4）大学支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/16（土）技術士第 1 次試験模擬試験をハイブリッド形式で実施する。 ・理工学部事務室に模擬試験受験を促す一斉のメールをお願いする。 ・当日の対面とオンラインの進行が大変と予想されるので、幹事各位のご協力を要請された。 <p>（5）各学科との協力事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>2. 審議事項</p> <p>（1）2020 年度活動報告及び 2021 年度活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金川名誉顧問及び坂林会長候補の記入部分について。説明があり、原案通り決定した。 ・CO2 環境対策技術研究会は休会とし、日程未定の松川地熱発電所を見学したのち解散とする。 <p>（2）第 9 期幹事の選任について（別紙の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・國島幹事が幹事長代行に就任することについて本人の応諾があった。 ・個人的な事情で退任を希望する幹事、及び 2 年以上活動に参加されていない幹事は退任として扱うことになった。 ・林幹事長はご家庭の事情もあり幹事長としての活動ができてない。役職として幹事長を退任して顧問に就任となった。 <p>（3）その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回総会の案内状について 議案決議の賛成/反対の項目を削除し、改めて武安副会長が取り纏めることとした。

■ 部会報告

○大学支援部会報告

項目	内容
模擬試験受験生の募集	第一次試験の模擬試験を受験する人をCプラスなどで募集しています。9/27(月)の時点で合計128名で、対面受験が47名、オンライン受験が81名です。

○広報部会報告

項目	内容
サーバー運営	メーリングリストに新規入会者を登録、メールアドレス修正
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.51の作成、発行
HP新規掲載	①ニュースレターvol.51の掲載 ②第17回定時総会・特別講演会開催案内掲載
その他	①サーバーのドメイン名更新手続き実施予定(10月予定) ②サーバーの利用更新手続き実施予定(12月予定) ③第2回理工ホームカミングデー10月23日開催 https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/science/event/2021/07/55328/
会員の皆様へのお願い	①就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ②ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。 ③会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「 <u>趣味</u> 」を共通テーマとしたリレーエッセイを(Vol.36)より開始しました。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。また、リレーエッセイの投稿をご希望の方はtoiawase@chuo-u-pej.orgまで、お知らせください。意外な繋がりが生まれるかも知れません。

活動計画

○企画部会活動計画

行事	日程	内容
中大技術士会 R3第1回講演会 (定時総会時の特別講演会として開催)	10月9日(土) ZOOMによるオンライン会議	講師：小柳 拓央 氏 (技術士(金属部門・総合技術監理部門)) 演題：「技術士 魂の伝承」 ～人生を切り拓く技術士資格の活用法
ホームカミングデー	11月21日(日)	今年度はオンラインで開催される予定ですが、詳細は未定です。
法曹会との交歓会	未定	次回の開催は中大技術士会が幹事担当ですが、新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせています。開催時期については、今後の状況を見て検討を行っていきます。

○大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
模擬試験の実施	10月16日	模擬試験を実施します。

■ 「還暦を目前にして思うこと」：小園江 雅彦さん（建設部門・総合技術監理部門）

1. 自己紹介

1962年（S37年）福島県いわき市生まれ、茨城県水戸市在住の小園江雅彦（おそのえまさよし）です。10年前のニュースレターに一度登場しましたが、改めて自己紹介させていただきます。

いわき市内の工業高校を卒業後、日本住宅公団（現在、（独）都市再生機構（UR都市機構））に入社し、翌年に理工学部2部土木工学科に入学し、1986年（S61年）に卒業しました。当時を振り返ってみると、とても懐かしく感慨深いです。4年間の勤労学生の経験は、その後の自分自身の礎になっていると思います。



公団・機構では、主に都市の基盤整備事業、いわゆるインフラの整備に長く携わってきましたが、今年の3月にURを退職し、自宅から徒歩3分の地元建設コンサルタントに転職し、第二の人生をスタートさせました。子育ても終わり、各種趣味（ドライブ、道の駅・神社めぐり、音楽・絵画・映画鑑賞、書道など）、ボランティア活動に興じ、充実した日々を送っています。

2. 仕事について

現在の業務内容は、URでのインフラ整備の業務とは大きく異なり、橋梁点検業務、長寿命化策定業務、修繕設計業務など、インフラメンテナンス関連の業務となっております。

40年間の経験とは異なり初めて経験することが多く、面食らう場面が多いですが、一緒に入社した高校卒の新入社員の初々しい姿に刺激を受け、初心忘れべからずの思いで一步一步歩み始めています。

3. インフラ点検に携わり始めて

橋梁点検を行っている、橋梁が可愛そうなくらい嘆かわしい状況を目にします。橋梁などのインフラは、2016年以降5年毎の点検が義務化されておりますが、損傷があっても速やかな補修に進まないのが現実です。少しでも軽傷のうちに手当をすれば重症化は防げるのですが、もっとひどい損傷にならないと手当をしません。管理者は、修繕するにしても限られた財源では如何ともし難い。そうした事情もわからなくはないのですが、でも一方では、ここにこんな立派な施設必要？一体だれが使うの？そんな疑問を感じる施設は、日本全国至るところにあります。

インフラ点検に携わってみて思うことは、まずは、国民が、日本の国土、インフラを孫子のように愛し、身近なところから護っていくことではないかということです。我々世代が子供の頃は、あちこちで道路や河川の愛護活動が行われていたように思います。それが、年々、経済の発展に伴い、身近なインフラを地域住民みんなできれいにしようという気持ちが薄れ、管理は行政の仕事という、そんな風潮になってしまったように感じます。

4. 地元でのボランティア活動

自宅近くの緑地帯において、地元住民による「渡里湧水群を活かす会」のボランティア活動があり、私も会の発足当時から参加しています。この緑地帯には、滾々と湧き出る豊富な湧水があり、隣接する川の水辺空間とともに古くから地域住民に愛されていました。それがいつしか、竹や雑草で荒れ果て、見るも無残な姿と化していました。その荒れ果てた状況から「昔の姿を取り戻し、多くの人々の憩いの場となり、さらには地域づくりに繋げたい」を目標に、周辺住民の力（力、知識、技など）を結集し、大きな夢に向かって地道な活動を展開しています。

当会の事務局が転職先にあることから、転職後は、会員活動に加え事務局の運営も担い始めています。

7年間の活動の総括として、公益財団法人都市緑化推進機構主催の緑の都市賞（市民協働部門）に応募しました。幸いにも、書面審査をパスし、9月6日には、現地審査まで進むことができました。10月末の選考結果が待ち遠しいところです。会員として、事務局として更に地域のために頑張っていきたいと思います。



5. これからの生き方について

まだまだ若いと思っていましたが、来年6月には還暦を迎えます。振り返れば、公私に渡り色々な苦難がありました。”艱難汝を玉にす”と言われますが、その苦難を乗り越えてきたからこそ、今の自分があると思っています。これからは、仕事以上に親・自分の健康面のこと、地域社会のことなどで悩みや考えることが多くなり、ネガティブな思考に陥ることもあるでしょう。これからは、今まで以上に前向きに、一人の人間として、技術者として、生きることの楽しみや素晴らしさを実感し、地域社会に少しでも貢献できるような生き方をしたいと思っています。

最後に、「致知」編集発行人 藤尾秀昭氏の言葉を紹介いたします。

「感動は人を変える。笑いは人を潤す。夢は人を豊かにする。そして、感動し、笑い、夢を抱くことができるのは人間だけである。天から授かったこのかけがえのない資質を育み、さらに磨いていくところに、前向きの人生は開けるのではないだろうか。」

次回のリレーエッセイは、夜学の同級生であります長内伸夫さんをお願いいたします。

投稿エッセイ

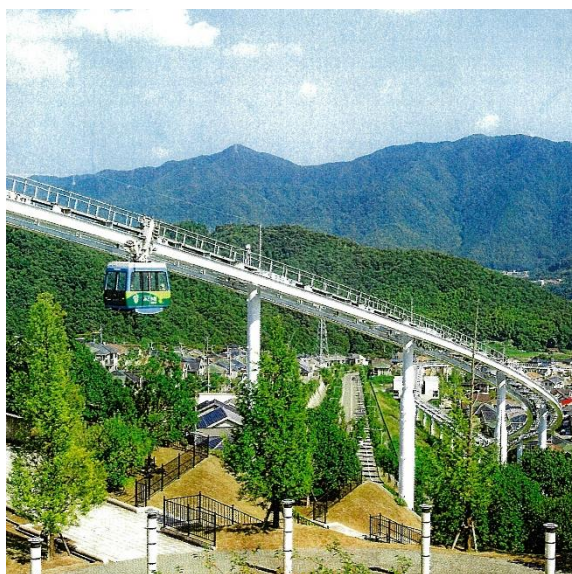
■ 「大学時代に考えていたこと（私の原点）」：山下三雄さん（建設部門・総合技術監理部門）

長崎市の思案橋電停から少し入ったところに「銀嶺」というクラシックな建物の喫茶店がありました。大学最後の年にユースホステルを使って山陽を経て九州を貧乏旅行した時にここに立ち寄り、備え付けのノートに何かを書きました。15年ほどたってからたまたま機会があり何を書いたのか気になって見に行きました。以下はその時私が書いたノートです。

「東京を発って倉敷・尾道・広島・下関を経て長崎に着いた。広島・長崎の原爆資料館を見て僕は非常なショックを覚えた。こんなところで呑気にお茶などを飲んでいていいのだろうか？旅行なんて所詮現実からの逃避の手段でしかないのだろうか？」

公害の町に住んでいるせいか、旅の先々の町がすべて美しく見えてならない。いや待てよ！僕の住んでいる住み飽きた町にも、僕の町にしかない良いところがあるかもしれない。僕たちの町は僕たち若者がより良い町にしていこう。

尾道大橋・関門架橋・若戸大橋を見た。明日は天草五橋を見るだろう。僕も来年は土木技術者（というと聞こえはいいが、早い話が現場監督）の卵だ。僕もいずれ人類の遺産として土木構造



出典：積水ハウスのまちづくり（2010年：積水ハウス株式会社）

物を残していきたい。

あ、それから水俣へ行って水俣病を見学に行こう。僕たちの技術を誤って使うと悲惨な目にあうことを、この目で見てこの胸で感じ脳裏に焼きつけておこう。将来より良い仕事をするために。

偉そうなことを言っている、近い将来企業の論理に十分に組み込まれる可能性の強い男。埼玉県川口市 山下三雄 中大理工土木 4年 S47.8.30 もう長崎に来ることもないだろう。」

結局水俣には寄りませんでした、その後長崎には 2,3 度訪ねました。ゼネコンに就職し、結構支店長をはじめ上司には言いたいことを言ってぶつかり我を通してきましたので、企業の論理には案外組み込まれなかったのではないかと今では思っています。

この若かりし頃の気恥ずかしい文章の中に私の原点があったように思います。その後土木技術者として主に街づくりの仕事（例えば、広島市において開発面積約 120ha、人口約 1 万人、総事業費約 500 億円の大規模都市開発事業^(注1)のプロジェクトマネージャー）に従事し、技術士資格も建設部門及び総合技術監理部門ともに「都市及び地方計画」の分野で取得しました。

（注1）開発区域に隣接する JR 駅との最大標高差が約 200m もある山を丸ごと造成しましたので、地区内幹線道路が 7%の連続勾配になり、交通弱者の方には優しくない街になることが懸念されました。そこで私は世界で初めての新交通システム「スカイレール」^(注2)の導入を提案し解決いたしました。これは今盛んに言われている SDGs のゴール 11「住み続けられるまちづくり」のターゲット 11.2「脆弱な立場にある人々等のニーズに配慮し、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。」に合致したものです。また、副次的効果として自動車の発生交通による CO₂ 等の汚染物質の大幅な削減もあり、「環境にも優しい」街づくりができました。

（ちなみにこの件が私の技術士試験の経験論文のまさに「ネタ」になりました。）

（注2）25 人乗りのキャビンが H 鋼の桁に懸垂し、H 鋼に沿って回転するワイヤーロープを握索して駆動するシステムで、駅部の停車・発車はリニアモーターを利用するもの。従ってロープウェイに比べて風にも強く、曲線及び約 20° の急傾斜走行が可能となる。現在は 7~15 分間隔（6:40~22:00）、運賃 170 円で運行中。（→写真参照）

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org

2021 年 10 月号 中大技術士会 広報部会 発行

中大技術士会ホームページ： <http://www.chuo-u-pej.org/>